International Ukiyo-e Society 29th Fall Conference

第29回

国際浮世絵学会

秋季大会

2024年11月9日（土）

会場
神奈川大学みなとみらいキャンパス
米田吉盛記念ホール（横浜市西区みなとみらい 4-5-3）
および Zoomによるオンライン

主催／ 国際浮世絵学会

第29回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会会長・大和文華館　**浅野　秀剛**
President of IUS., Museum Yamato Bunkakan　**Shūgō ASANO**

この夏、７月はイギリスに、８月はアメリカに行きました。イギリスは、北斎館とセインズベリー日本藝術研究所が主催するシンポジウム「シン 複製画」にパネラーとして参加するためです。セインズベリー日本藝術研究所は、ロンドンから電車で北に２時間のノリッジにあり、そこでシンポジウムが開催されると思いきや、さらに北の港町のウェルズネクストザシーにあるウェルズモルティングという文化と観光を兼ねた複合施設が会場でした。そこで開催されている Hokusai: A Vision Above という展覧会に合わせての企画で、こんな所で日英の共同企画が、と、私にとっては大変な驚きでした。

アメリカは、フィラデルフィアにあるペンシルベニア大学図書館に寄贈されたトレスコレクションの調査です。トレスコレクションは、日本の近世・近代の絵入版本のコレクションで、多摩美術大学の木下京子先生とペンシルベニア大学のジュリー・ネルソン・デイビス先生を中心とした調査プロジェクトです。状態の良い稀覯書は少なく、端本が多いのですが、珍本も多く、何よりも、近世の絵入版本がどのように制作流通したかを解明する意味で、興味深いコレクションと思います。誤解を恐れずに言えば、調査は私にとって遊びのようなもので、楽しく過ごすことができました。

今年の秋季大会も、ハイフレックス開催となります。特別講演は、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館のメアリー・レッドファーン氏による「版画化された列女―江戸時代における模範的女性像」です。シンポジウムは「歌川派と明治」と題し、浮世絵界の近代化のはじまりについても検討されるとうかがっています。

今回も昨年に続き、横浜みなとみらいの神奈川大学で行われます。大会の開催をお引き受け下さった神奈川大学、準備の主体となった国際委員会をはじめ、ご尽力下さったすべての方々に感謝申し上げ、ご挨拶といたします。

第29回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会理事長・国立歴史民俗博物館
Chair of the Board of IUS., National Museum of Japanese History
大久保　純一
Jun'ichi ŌKUBO

今年もまた、無事に秋季大会を迎えることができました。ここ１年ほど、学会の研究会に足を運んでいて気づいたことですが、数年前よりも参加される学会員の人数が目立って増えてきたように思えます。パンデミックの自粛の間に、人とのつながりが希薄になっていたことの反動であることは間違いないと思いますが、研究会に足を運ぶ価値のある充実した展覧会が数多く開催されてきたこと、若手の熱心な研究者が増えてきたことなど、ほかにもいろいろ要因はあると思います。会員数の目覚ましい増加とまではいたっておりませんが、学会活動そのものは活気を帯びてきているといってもいいでしょう。

今回のシンポジウムは「歌川派と明治」という挑戦的なテーマが設定されています。近年明治の浮世絵を専門とする若手の研究者の活躍が目覚ましい学界動向が反映されているのでしょう。活気あるディスカッションを明治版画研究の権威である岩切信一郎さんがどうさばいていかれるのか、実に楽しみです。

ところで私事になりますが、私はついにこの夏、前期高齢者の仲間入りを果たしました。今の職場もあと数か月で定年退職となります。上記、若手の活躍がどうこうなどと分別くさいことを書いてきましたが、ついこの間まで自分も若手のつもりだったのに、あっというまに歳をとってしまったことに正直慄いています。いったい自分はこれまで何を成しえたのか…、いまさら過ぎたことを悔やんでも仕方がないのですが。歌川派を研究テーマにしてきたひとりとして、せめて今大会の活発な議論に刺激を得て、残りそうは長くない時間の中でいったい何ができるかを考えてみたいと思います（以上、大会テーマの「明治」から、「明治は遠くなりにけり」と過行く時の早さを想起した痴れ言でした）。

最後になりましたが、今回の大会開催のためにご尽力いただいた藤澤茜委員長をはじめとする国際委員会および関係する会員の皆様、会場をご提供いただいた神奈川大学様に厚く御礼申し上げます。

国際浮世絵学会
INTERNATIONAL UKIYO-E SOCIETY

第29回　国際浮世絵学会 秋季大会

日時：2024年11月9日（土）
会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス1階米田吉盛記念ホール（横浜市西区みなとみらい4-5-3）
およびZoomによるオンライン

※大会の参加方法や参加費については、本冊子の【秋季大会　参加方法】をご覧ください。

タイムテーブル

総合司会：藤澤 茜（国際委員会委員長・神奈川大学）

10：30　開会の辞　大久保 純一（国際浮世絵学会理事長・国立歴史民俗博物館）

10：40～11：20　研究発表　　司会：岡崎 礼奈（東洋文庫）
「陶磁器の意匠と浮世絵　―輸出伊万里における女性をモチーフとした図様に関する考察―」
松浦 里彩（國學院大學）

11：20～12：00　研究発表
「錦絵や版本に描かれた「菅公図像」の研究　―礼拝対象としての図像を中心に―」
虎間 英喜（大阪公立大学）

12：00～12：40　研究発表
「19世紀末−20世紀初頭のロシアの挿絵やポスターのグラフィックデザインに見られる浮世絵の要素」
ユリア・クレショヴァ（慶應義塾大学）

12：40　休憩

14：00　シンポジウム「歌川派と明治」　　司会：岩切 信一郎（美術史家）
発表：津田 卓子（名古屋市博物館）**「芳年がつなげたもの」**
村瀬 可奈（東京国立博物館）**「明治期の美人画　―楊洲周延を中心に―」**
神谷 蘭（港区立郷土歴史館）**「三代歌川広重の画業」**
渡邉 晃（国際委員会副委員長・太田記念美術館）**「豊原国周と明治の役者絵」**

16：15　休憩

16：30　特別講演　　司会：染谷 美穂（千葉市美術館）
「版画化された列女―江戸時代における模範的女性像」
メアリー・レッドファーン（ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館）

17：30　閉会の辞　藤澤 茜

17：45　懇親会　　司会：長井 裕子（茂木本家美術館）
会場　VOYAGE（神奈川大学みなとみらいキャンパス1F）

表紙画像（すべて太田記念美術館所蔵）
豊原国周「きられ与三郎　薪水」
月岡芳年「月百姿　玉兎　孫悟空」
三代歌川広重「東京名所京橋従煉化石之真図」
楊洲周延「欧洲管絃楽合奏之図」

International Ukiyo-e Society 29th Fall Conference

Saturday, November 9, 2024, at Yoneda Yoshimori Memorial Hall, Minato Mirai Campus, Kanagawa University (4-5-3 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama-shi)
HyFlex

General Chair: **Akane FUJISAWA** (Chair of the International Committee, Kanagawa University)

10:30 **Opening Address**
Jun'ichi ŌKUBO (Chair of the Board of IUS., National Museum of Japanese History)

Presentations Moderator: **Rena OKAZAKI** (Toyo Bunko)

10:40 ～ 11:20
Risa MATSUURA (Kokugakuin University)
"Female Motifs in Exported Imari Ware: The Influence of Ukiyo-e Printed Books on Ceramic Designs"

11:20 ～ 12:00
Hideki TORAMA (Osaka Metropolitan University)
"Representations of Sugawara no Michizane (Kankō) in Ukiyo-e Prints and Printed Books with a Focus on Images for Worship"

12:00 ～ 12:40
Yulia KULESHOVA (Keio University)
"The Influence of Ukiyo-e on Illustration and Poster Design in Fin-de-Siècle Russia"

12:40 **Lunch Break**

14:00 **Symposium** "The Utagawa School in the Meiji Era"
Coordinator: **Shin'ichirō IWAKIRI** (Art Historian)
Presenter: **Takako TSUDA** (Nagoya City Museum)
"Yoshitoshi's Contribution to the Following Generation of Artists"
Kana MURASE (Tokyo National Museum)
"'Pictures of Beautiful Women' in the Meiji Era with a Focus on Yōshū Chikanobu"
Ran KAMIYA (Minato City Local History Museum)
"The Work of Utagawa Hiroshige Ⅲ"
Akira WATANABE (Vice Chair of the International Committee, Ota Memorial Museum of Art)
"Actor Prints of the Meiji Era and the Work of Toyohara Kunichika"

16:15 **Break**

16:30 **Special Lecture** Moderator: **Miho SOMEYA** (Chiba City Museum of Art)
Mary REDFERN (Victoria and Albert Museum)
"Paragons in Print: Exemplary Women in Edo Japan"

17:30 **Closing Remarks**
Akane FUJISAWA

17:45 **Reception** Moderator: **Hiroko NAGAI** (Mogi Honke Museum of Art)
(Venue: Restaurant VOYAGE, Minato Mirai Campus, Kanagawa University)

第29回　国際浮世絵学会　秋季大会　参加方法

第29回秋季大会は、神奈川大学みなとみらいキャンパスで開催をいたします。あわせてZoomを使ったオンラインでも配信いたします。

みなとみらいキャンパスへは一般の方も参加が可能ですが、オンラインでの参加は国際浮世絵学会会員限定とさせていただきます。パソコンやスマートフォン等のインターネット環境をあらかじめご準備ください。

■会場参加方法

当日は本冊子と会員証をご持参ください。マスクのご着用は任意です。また、体調のすぐれない方のご参加はご遠慮ください。

当日資料代は会員無料、一般1000円、学生500円です。

■会場案内

神奈川大学みなとみらいキャンパス　１階米田吉盛記念ホール

- みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩約６分
- みなとみらい線「新高島駅」下車徒歩約４分
- JR・東急東横線・京浜急行・相鉄本線・横浜市営地下鉄「横浜駅」下車徒歩約11分
- JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩約12分

■会場での飲食について

会場となる米田吉盛記念ホールには、フタ付きの飲み物のみ持込み可能です。
ホール内でのお食事は不可となっているため、キャンパス１階のレストランか近隣の飲食店をご利用ください。

■オンライン参加について

事前申込みは不要です。当日、下記のミーティングID、パスコードを入力しご参加ください。メールアドレスを登録されている会員には、事前にURLを送信しますので直接アクセスください。

なお、オンライン参加の場合、発表資料は当日、Zoomのチャット欄での配信となります。

■オンライン参加の手順

・Zoomを起動し「ミーティングに参加」をクリック。お名前はフルネームで表記してください。
・ミーティングIDに下記の数字を入れ、「参加」をクリック。
　　ミーティングID：**858 8841 5948**
・パスコードに下記の数字を入れてください。
　　パスコード：**136595**
・11月９日（土）10：20よりZoomにアクセスが可能です。
　注意）オンラインでの参加は会員限定です。上記のID、パスコードは会員以外には決してお知らせしないようお願いします。

陶磁器の意匠と浮世絵
― 輸出伊万里における女性をモチーフとした図様に関する考察 ―

Female Motifs in Exported Imari Ware: The Influence of Ukiyo-e Printed Books on Ceramic Designs

國學院大學　**松浦　里彩**
Kokugakuin University　**Risa MATSUURA**

本発表は、伊万里焼の中でも元禄期から18世紀半ば頃にかけて西欧へ輸出された古伊万里金襴手様式の磁器の意匠、特に女性をモチーフとする図様について、浮世絵師らが手掛けた版本を中心にその関わりを検討するものである。

伊万里焼は、日本ではじめての磁器として17世紀初頭に誕生した。当初より中国の文様が用いられてきたが、17世紀半ば頃から西欧への輸出が本格化すると和様化が進み、元禄期以降は日本の風俗が新たなモチーフとして取り入れられるようになった。その背景には、輸出磁器市場での中国との熾烈な競争や、西欧圏でのシノワズリーによる異国趣味の影響などが考えられる。

輸出伊万里には女性の姿が多く描かれており、浮世絵や近世の風俗図などにみられる女性像との類似が示唆されてきた。髱の突き出る特徴的な髪型は元禄期の風俗を象徴し、形式的な美人像ともとれる立ち姿には手本の存在がうかがえる。

浮世絵は他の流派と異なり木版画による大量生産を通じて普及した。中でも版本は染織をはじめ工芸の分野との関わりが深く、絵手本としての活用例も散見される。17世紀の伊万里焼には、すでに『八種画譜』や小袖雛形本などからの引用が確認できることから、発表者は18世紀前期の輸出伊万里の意匠には「浮世絵」のイメージが活用され、特に版本類を手本とした可能性が高いと考えている。

元禄期は浮世絵が創始されて間もない頃ながら、菱川師宣や西川祐信ら絵師による版本類が多数出版された。たとえば、西川祐信の版本に傘を持つ従者と禿を伴う遊女や、花見に連れ立つ女性達の様子が複数みられるが、同様の図様が輸出伊万里にもみられることは興味深く、これらが磁器における新たな文様のパターンとして成立したことを指摘したい。

以上より、本発表では版本類に重点をおきながら、伊万里焼の意匠に新たな変化がみられる時期の浮世絵に注目し、18世紀前期における輸出伊万里の女性をモチーフとした図様について考察する。

錦絵や版本に描かれた「菅公図像」の研究
― 礼拝対象としての図像を中心に ―

Representations of Sugawara no Michizane（Kankō）in Ukiyo-e Prints and Printed Books with a Focus on Images for Worship

大阪公立大学　**虎間　英喜**
Osaka Metropolitan University　**Hideki TORAMA**

菅原道真（845-903）を描いた絵画は、その怨霊を鎮めるという天神信仰のはじまりとともに、礼拝の対象として制作された。江戸時代、印刷技術の発達や寺子屋教育の発展などの要因によって、道真は庶民にとって身近な「学問の神」となり信仰の裾野は広がりをみせた。これにともなって、錦絵や版本に様々な道真の図像が登場することとなった。今日ではこれらを「天神像」と総称しているが、発表者は江戸時代後期以降、歴史画の主題として「菅原道真像」が描かれたことを考え合わせ、両者を包括する呼称として「菅公図像」という名称を使用する。本発表は、錦絵とくに掛物絵や版本から、当時の天神信仰における菅公図像受容のあり方について考察することを目的とする。

さて奥村政信（1686-1764）の「浮絵天神講」は、天神講の様子を描いた図である。一方、画面左側の邸外に目を移すと芝居小屋と「菅原手習鑑」の看板を認め、様々な部分に「梅」、「桜」、「松」のイメージが散りばめられた「菅原伝授手習鑑」のダブルイメージの絵画であることがわかる。さらに絵の外枠は、絵馬を表現していることが認識できる。

また寺子屋の隆盛により、教科書として利用された「庭訓往来」などの往来物が数多く板行された。これらの巻頭には、度々菅公図像を礼拝している図様が掲載された。他方、いわゆる「束帯天神」や「牛天神」の傍らに、菅公図像を礼拝することで得られる功徳に関する文言が付加されている版本の存在も認める。

本発表では、錦絵と版本との菅公図像の比較検討を行う。そしてその結果として学問の場にあっては必ず「束帯天神」が用いられること、また版本の「此尊形ハ」で始まる記述から、菅公図像の像様の違いによって、得られる功徳が異なるという信仰心の存在をみいだした。したがって掛物絵の図様は単に鑑賞者の嗜好によるものではなく、それが用いられる場面や祈願の内容によって取捨選択されるものであったことを指摘する。

19世紀末−20世紀初頭のロシアの挿絵やポスターのグラフィックデザインに見られる浮世絵の要素

The Influence of Ukiyo-e on Illustration and Poster Design in Fin-de-Siècle Russia

慶應義塾大学　ユリア・クレショヴァ
Keio University　Yulia KULESHOVA

19世紀末から20世紀初頭のロシアの美術界は、新奇な表現を探求する中で日本美術との接触が進んでいった時代である。この時期、ロシアでは初期の日本美術展覧会が開催され、浮世絵木版画のコレクターも現れ始め、日本に関する関心の拡大とともに、日本美術を直接鑑賞する機会が増えた。特に若い世代の画家たちはこれに強く惹かれ、彼らが手掛ける絵入り雑誌、ポスター、童話絵本の挿絵に浮世絵木版画から受けた影響が次第に現れるようになった。例えば、フラットな色彩の使用や、強調された輪郭線、そして近似型構図、俯瞰的な視点などといった要素がその例であり、これらがロシアのグラフィックデザインに新たな視覚的要素をもたらす結果となった。

従来の研究では、主に絵画作品に焦点が当てられ、日本美術の影響を軽視する傾向が見られる。しかし、本発表ではその枠を超え、グラフィックデザインの表現方法や印刷技術の面で最先端にあった絵入り雑誌、ポスター、童話絵本に着目し、構図上の特徴を中心に考察していく。特に、芸術村のアブラムツェヴォ派のエレーナ・ポレーノヴァ（1850−1898）やマリア・ヤクンチコヴァ＝ウェーバー（1870−1902）をはじめとする女性画家たちの作品における浮世絵の要素を詳細に分析･分類し、それらがどのようにロシアのグラフィックデザインに影響を与え、反映されたかについて検討することを目的とする。

歌川派と明治

The Utagawa School in the Meiji Era

美術史家　**岩切　信一郎（司会）**
Art Historian　**Shin'ichirō IWAKIRI（Coordinator）**

浮世絵の近代化の問題は日本美術の近代化と強く関連している。だが、そこには「浮世絵衰退の時代」とする過剰なマイナスイメージが立ちはだかって「明治浮世絵」への関心や理解は低調である。衰退にも程度がある訳で、明治の浮世絵界は御維新の新時代から一貫して、果敢にも時代に即した《新浮世絵》を常にめざしていたことをそろそろ認識してもらいたいものである。肉筆では日本近代画壇形成の努力が成され、挿絵では新聞・雑誌のニューメデイアの中で新時代を誘導し活況を帯び､版画は常に「明治」の歴史や風俗に寄り添って新領分を開拓し、口絵版画、輸出版画さらには渡辺庄三郎提唱の「新板画」へと命脈をつないだではないか。今回はそうした新しい浮世絵の流れを生み出した明治の初期から中期の時代が話題の中心になろう。大いに活躍した歌川派の明治人たる大蘇芳年、落合芳幾、豊原国周、三代広重たちやその門人たち、あるいは浮世絵界へ新加入の小林清親、尾形月耕などの新勢力との関係にも及ぶことを望むものである。江戸期とは異なる面を大いに評価して欲しい。

来年が豊原国周の生誕190年、さらに初代歌川豊国の没後200年と研究の基点を迎えることもあって今回は「歌川派と明治」というテーマを設定した。明治初期から中期に焦点を絞った検討になるだろうが、浮世絵界の近代化のはじまりについて再検討してみたい。ディスカッションでは各報告を踏まえ、歌川派全体を俯瞰的に眺めつつ、画工（絵師）の動向や交流、ジャンルや絵内容の変容、さらには「歌川派」としてのアイデンティティ存在とか、浮世絵師としての矜持（きょうじ）とかにも話が及ぶとより議論が賑わう事だろう。浮世絵は過去のもの、終わったものではなく、現代につながっていると私は思っている。近代・現代の美術につながる活発な議論がなされるべきだと思う。本稿は７月末の時点であり、目下、発表者も司会者も課題に向き合ったばかりである。互いの打ち合わせがない段階の思いである。このシンポジウムも当日どのように意見が交わされるか見当がつかない。これもシンポジウムの醍醐味と御容赦願いたい。

芳年がつなげたもの

Yoshitoshi's Contribution to the Following Generation of Artists

名古屋市博物館　**津田　卓子**
Nagoya City Museum　**Takako TSUDA**

芳年（1839-92）が武者絵を得意とし、世評を得たことは、『やまと新聞』に掲載される略伝の一節「近年浮世絵武者を画く者、翁（＊註、芳年）の画風に據ざるはなし」を引くまでもなく認められるところだろう。むろんそれは国芳のもとで学んだことが大きく、芳年は画業の初期より武者絵を手掛けているが、明治に入って、過去の歴史人物を取り上げる教訓画・歴史画が求められるなかで、それに多く応えたのも彼なのであった。

本報告では、顔貌などの表現、描出のありかたに着眼点をおいて、武者絵における芳年の作画姿勢を探ることとする。あわせて師の国芳、同門の芳幾はもちろんのこと、『教導立志基』をともに描いた清親、芳年門人の年方らの作例と比較することで、芳年の個性を捉えることをめざす。ひいては武者絵を通して、芳年が師から何を継承し、結果的として次代へと伝えたのかをみていくこととしたい。

明治期の美人画
―楊洲周延を中心に―

'Pictures of Beautiful Women' in the Meiji Era with a Focus on Yōshū Chikanobu

東京国立博物館　**村瀬　可奈**
Tokyo National Museum　**Kana MURASE**

明治期の浮世絵美人画を概観すると、四季の景物や名所のなかで人々の日常を理想的に描き出すという、基本的な姿勢は江戸期から変わらないといえる。美人大首絵から三枚続の群像まで、形式の多くも引き継がれている。しかし変化する時代のなかで、画題や表現、色彩には様々な展開を見て取ることができる。例えば、明治20年前後には欧化政策のあらわれとして洋装の女性像が流行し、その一方で、江戸を懐古する風潮のなか、明治20年代後半以降は大奥を題材にした作品がさかんに生み出されるようになる。天皇皇后と女官たちを描いた御所絵も明治期ならではの美人表現といえるだろう。

こうした美人画に積極的に取り組んだ楊洲周延（1838-1912）は、幕末期には江戸詰の高田藩士として過ごしたため絵師としては遅咲きだが、国芳、三代豊国、そして国周に師事したことから歌川派の様式を色濃く受け継ぎ幅広い活躍をみせた。本報告では周延の作品を中心に、明治期の美人画が江戸期から何を継承し、時代に合わせてどのような展開をみせたのかを考えたい。

三代歌川広重の画業

The Work of Utagawa Hiroshige Ⅲ

港区立郷土歴史館　**神谷　蘭**
Minato City Local History Museum　**Ran KAMIYA**

三代歌川広重（以下三代広重）は、幕末から明治時代にかけて「横浜浮世絵」、「開化絵」と呼ばれる都市風景の絵を数多く描いている。これらは、名所として知られる場所の近代化の様子や、横浜のように新しく作られた都市の様子など、まさに文明開化の名所絵といえるものである。その点において明治時代初期の浮世絵界に与えた影響は大きく、名所絵の巨匠であった広重の名を継ぐ者として、時流を捉えてその役割を全うしたことは間違いないだろう。大まかな画業は把握されているものの、詳細な研究は未だ途上にあるため、今後さらなる展開が期待できる絵師の一人でもある。

本報告では、三代広重の画業を細かく確認し、特に歌川派の絵師との関わりを見出せる「画業開始と広重襲名の時期」について、そして「博覧会・共進会への参加」について、新たに考えられる可能性を提示したうえで、考察していきたい。

豊原国周と明治の役者絵

Actor Prints of the Meiji Era and the Work of Toyohara Kunichika

国際委員会副委員長・太田記念美術館　**渡邉　晃**
Vice Chair of the International Committee, Ota Memorial Museum of Art　**Akira WATANABE**

豊原国周は十代で一遊斎近信に入門して羽子板絵を手掛けたとも言われ、のち歌川国貞（三代豊国）に入門した。異色の経歴ではあったが、師の本領である役者絵を継承し、以降第一人者として活躍する。そのイメージを形成してきた役者大首絵だけでなく、明治20年代の淡い色調による続き物の役者絵、繊細な女性像をとらえた美人画など、生涯に渡って人物画の領域で地道に工夫を続けつつ、膨大な作品を手掛けている。

文明開化の町並みを描いた三代広重、国家主義を背景とした歴史画を手掛けた芳年、欧化政策を背景とした洋装の貴顕を描いた周延のように、明治時代の浮世絵では、移りゆく時代の流れや思想が、しばしばまとまった作品群を生み出している。一方で国周においてはそのような作品の割合は意外に少なく、どちらかといえば役者絵や美人画などの作品に間接的に表出する傾向にあるのは興味深い。本報告では役者絵を中心に、他の絵師との比較も交えながら、国周作品の特質について改めて考えてみたい。

版画化された列女
― 江戸時代における模範的女性像

ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
メアリー・レッドファーン

狂歌摺物のうち、岳亭描く揃物「葛飾連額面婦人合」（1822年頃）は、日本の歴史や伝説に登場する特別な女性を選び集めている。このシリーズ全体を鑑みると、とりあげられた女性たちは列女すなわち模範的女性とみなし得る。列女自体、歴史ある主題である。江戸時代の作者や版元たちは、いにしえの中国の典籍に着想を得て歌人、武者、娼妓や女神までも包括する女性たちのまとまりを作りあげ、女訓書・絵本・錦絵の紙面を賑わしてきた。すでに確立していた三十六歌仙や八仙、七福神の類とは異なり、こうした列女伝ともいえる作品の顔ぶれは厳密には体系化されたことがなかった。その本文や図像は、構成や人物の選択においてかなりの多様さをみせている。これら歴史や伝説に材を取った模範的女性像は、さまざまな媒体においてさまざまな受容層に対して、さまざまな趣旨で表現された。書籍から私家版の摺物や商業出版の錦絵まで、日本の出版美術を通してこれらの女性たちを追いかけることによって、江戸時代の日本における、主題と媒体の変動的な役割を理解することに迫る。

〈略歴〉

ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に学芸員として2023年3月に着任。それ以前に、8年にわたってダブリンのチェスター・ビーティー・ライブラリー学芸員を務める。専門は江戸時代の版画および明治期皇室の食器・御用品。主著に『*Edo in Colour: Prints from Japan's Metropolis*』（チェスター・ビーティー、2021年）、『*Art of Friendship: Japanese Surimono Prints*』（チェスター・ビーティー、2017年）、『天皇のダイニングホール』（思文閣出版、2017年、山﨑鯛介・今泉宜子との共著）

岳亭春信「葛飾連額面婦人合　小野小町」
（千葉市美術館蔵）

Paragons in Print: Exemplary Women in Edo Japan

Victoria and Albert Museum　**Mary REDFERN**

The *surimono* series '*Katsushika-ren gakumen fujin awase*' (c. 1822), designed by artist Yashima Gakutei, draws together a group of exceptional women from Japanese history and legend. On reconstructing this series, the women depicted can be understood as *retsujo*, exemplary women, a subject with its own history in and beyond Japan. Taking inspiration from much earlier Chinese texts, authors and printmakers of the Edo period constructed a collective of women that encompassed poets, warriors, sex workers and goddesses to populate the pages of texts for women, *ehon* and commercially published prints. Unlike other established listings, such as the 36 Immortal Poets, 8 Immortals and 7 Gods of Good Fortune, the cohort for these *Retsujoden* works was never strictly codified. *Retsujoden* texts and graphic works show significant variety in their structuring and choice of individuals. These paragons were picked out of history and legend to be (re)presented across different media, for different audiences, and with different intent. Following these women through Japan's printed arts—from books to privately-published *surimono*, and commercially-published *nishiki-e*—we come closer to understanding the dynamic roles of subject and medium in Edo-period Japan.

〈Profile〉

Mary Redfern, Ph.D, joined the Asia Department of London's Victoria and Albert Museum as Curator, Japan, in March 2023. Previously, she worked for eight years as Curator of East Asian Collections at the Chester Beatty, Dublin. Her research interests encompass graphic and narrative arts of the Edo period, as well as Meiji-era imperial dining and ceramics. Her publications include *Edo in Colour: Prints from Japan's Metropolis* (Chester Beatty, 2021), *Art of Friendship: Japanese Surimono Prints* (Chester Beatty, 2017) and *Tennō no dainingu hōru* (*Emperor's Dining Hall;* Shibunkaku, 2017) written with Yamazaki Taisuke and Imaizumi Yoshiko.

第29回　国際浮世絵学会　秋季大会　協賛

国際浮世絵学会　秋季大会開催に際し、次の方々から寄付と協賛を賜りました。
記して深く感謝いたしますとともに、心より御礼申し上げます。

（2024 年 10 月 2 日現在　五十音順　敬称略）

浅野　秀剛
有限会社いせ辰
一心みずい版画（水井　みつ子）
株式会社 江戸文物研究所（内村　修一）
UJLAKI PETER
大久保　純一
（有）大屋書房（纐纈　公夫・纐纈　くり）
河合　正朝
嬉遊会　地曳　誠
五拾画廊株式会社（土屋　雅人）
株式会社壺中居
小林　忠
佐々木　昭美
井蛙庵（柳　重之）
中外産業株式会社
土屋　昭太郎
東京浮世絵会（御成会）
東間　勝彦
中村　真
（株）原書房（原　秀昇・原　敏之）
原田　英利
株式会社 マツミサロン（塚原　雄太）
三田アート画廊株式会社（Ken Caplan）
武藤　元昭
安村　敏信
株式会社 古美術 藪本（藪本　俊一）
株式会社渡邊木版美術画舗（渡邊　章一郎）

原書房

浮世絵版画　和本　浮世絵関係書

101-0051
東京都千代田区神田神保町2-3
Tel 03 5212 7801
Fax 03 3230 1158
Mail ukiyoe@harashobo.com

月岡芳年 (TSUKIOKA YOSHITOSHI)
月百姿　源氏夕顔巻　明治19年 (1886)

2-3 Kanda Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051 Japan
Tel +81 3 5212 7801 / Fax +81 3 3230 1158
営業時間: 11:00 - 18:00　定休日: 日・月・祝日 (Closed on Sundays, Mondays & Public Holidays)

HARA SHOBŌ
TOKYO JAPAN
www.harashobo.com

旅と郷愁の風景　川瀬巴水展

大阪歴史博物館　2024年10月5日から開催
特別協力　㈱渡邊木版美術画舗

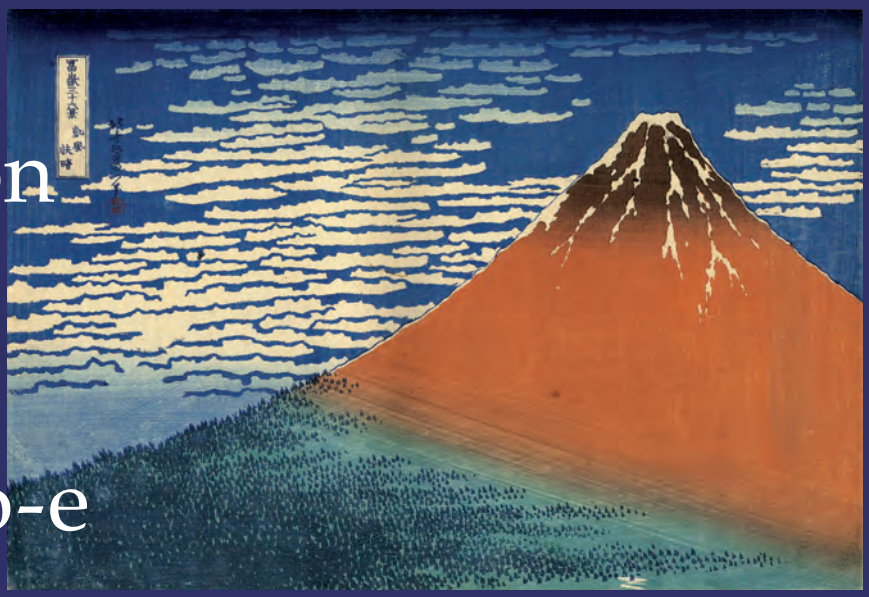
(株)渡邊木版美術画舗
S.WATANABE COLOR PRINT CO.
〒104-0061　東京都中央区銀座8-6-19
TEL 03-3571-4684 ／ FAX 03-3572-8887
http://www.hangasw.com

Old and Rare Books,
specialty store

Wahon
和本

Maps
古地図

Ukiyo-e
浮世絵



江戸時代の和本、古地図、浮世絵版画専門店

大屋書房

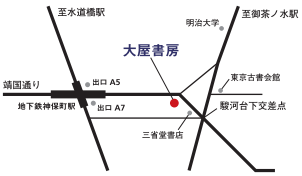
OHYA-SHOBO CO.,LTD. Established 1882.

www.ohya-shobo.com

101-0051
東京都千代田区神田神保町1丁目1番地
1-1 Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

TEL 03-3291-0062 / FAX 03-3295-2334
MAIL ohya@ohya-shobo.com

OPEN 月—土曜 | 10:00～18:00
CLOSE 日曜・祝日（営業の場合もあります。ご連絡下さい）



株式会社 マツミサロン

MATSUMI SALON CO., LTD

〒160-0022
東京都新宿区新宿1-19-10
サンモールクレスト606
TEL：03-3357-6174
FAX：03-3355-0504
E-mail ukiyoe@matsumisalon.co.jp

606 Sunmall Crest 1-19-10
Shinjuku Shinjuku-ku
Tokyo 160-0022 Japan
TEL：81-3-3357-6174
FAX：81-3-3355-0504

西村重長「新吉原座敷遊人物図」部分 紙本著色　53.3×64.8cm

Edo Culture Laboratory Co., Ltd.

株式会社 江戸文物研究所

内村美術店

〒103-0013 中央区日本橋人形町2丁目18-4昭美ビル 1 階
電話：03-5640-4446 FAX：03-6661-6641
mail：edo.bunbutsu@gmail.com HP：https://www.ukiyoe.co.jp/

第29回　国際浮世絵学会　秋季大会　実行委員会

浅野　秀剛	藤澤　茜	定村　来人	Buckland, Rosina
大久保　純一	渡邉　晃	染谷　美穂	Davis, Julie Nelson
纐纈　くり	石上　阿希	内藤　正人	Kok, Daan
田辺　昌子	岡崎　礼奈	長井　裕子	Marks, Andreas
渡邊　章一郎	木下　京子	西田　亜未	
角田　日出男	小林　ふみ子	山口　桂	

第29回　国際浮世絵学会　秋季大会

International Ukiyo-e Society 29th Fall Conference

2024年11月 9 日
編集・発行　国際浮世絵学会
〒104-0031　東京都中央区京橋2－12－2　京橋三貴ビル4F
Tel: 03-6271-0824　Fax: 03-6271-0834
International Ukiyo-e Society
2-12-2-4F Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, JAPAN
Tel: +81-3-6271-0824　Fax: +81-3-6271-0834
https://www.ukiyo-e.gr.jp/
印刷・製本　上毛印刷株式会社

The 29th

International Ukiyo-e Society Fall Conference

International Ukiyo-e Society

Saturday, November 9, 2024

at Kanagawa University, HyFlex